

## 論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（ 歯 学 ）	氏名	浅尾 友里愛
学位授与の条件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 The survey of oral health conditions for school children and the practice of oral health education programs for schoolteachers in a Cambodian primary school （カンボジア公立小学校における児童の口腔内状況の調査と小学校教員への歯科保健教育プログラムの実践）			
論文審査担当者			
主 査	教授 太田 耕司	印	
審査委員	教授 内藤 真理子		
審査委員	教授 加藤 功一		
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>カンボジア王国（以下カンボジア）では、過去の内戦の影響から現在でも歯科医療サービスは供給不足である。家庭や学校において歯科保健教育がほとんど実施されておらず、人々の口腔衛生に対する意識も低いことから、特に小児において高いう蝕罹患率を示している。本論文では、カンボジア公立小学校教員への歯科保健教育プログラムの実践内容および小学校児童の経年的な口腔内状況の調査・分析内容について検討した。</p> <p>本研究では、カンボジアのシェムリアップ市中心部に位置する公立小学校を対象校とし、2011年～2015年に訪問した。うち、2011年～2014年に小学校教員への歯科保健教育に関する研修会を実施し、2013年時には参加した教員に対し質問紙調査を実施した。また、2011年～2015年に児童のべ2,637名の口腔内診査を実施した。う蝕の状態としてう蝕有病者率・DFT（一人あたりの未処置歯数と処置歯数の合計）・DF歯率（全歯数に対するDFTの割合）について、口腔衛生状態として歯垢の付着状態・歯肉の状態・歯石沈着の有無について集計・分析を行った。</p> <p>教員研修会に関する結果では、2011年～2013年は全教員約90名が、2014年は低学年担当の教員約45名が参加した。2013年時の研修内容の理解度調査では平均点が4点満点中2.26から3.42に上昇し、研修後の意識調査では児童への歯科保健教育の実践について95.5%の教員から前向きな回答が得られた。</p> <p>口腔内診査に関するでは、う蝕有病者率は各調査年とも90%を超える高い割合を示した。DFT・DF歯率は2011年から2015年にかけて、有意に低下した。口腔衛生状態に関しては、歯垢の付着状態・歯肉の状態・歯石沈着の有無ともに、2013年から2015年にかけて有意に低下した。</p> <p>以上の結果から、本論文はカンボジア公立小学校において数年間継続して実施した小学校教員への歯科保健教育に関する働きかけが、小学校児童のオーラルヘルスプロモーションの推進に寄与した可能性があることが考えられた。</p> <p>以上の結果から、本論文はカンボジア公立小学校教員への歯科保健教育プログラムの実践と小学校児童の経年的な口腔内状況の変化における有意義なデータを提供し、小児歯科学ならびに関連歯科医学の発展に寄与するところが大きいと評価される。よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士（歯学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。</p>			